

土砂移動の障害を軽減するための方策を検討

●具体的な整備内容

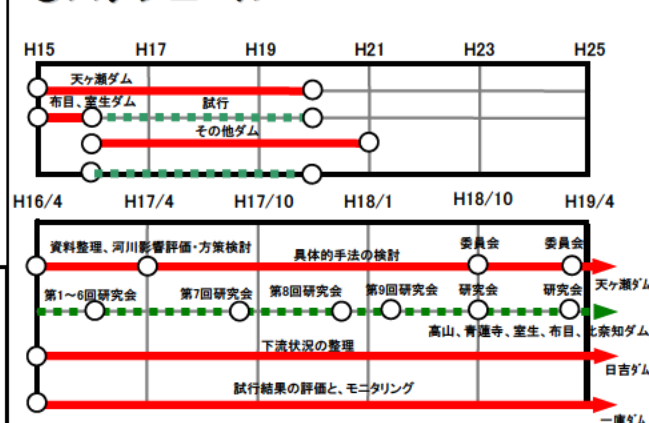
河床材料や形状等の調査及び河床変動等といった土砂動態のモニタリングを実施し、その調査結果を踏まえ、山地流域から沿岸海域に至るまでの総合土砂管理方策について検討する。なお、土砂流出防止機能を有する森林の保全・整備の検討について、関係機関との連携を図る。

土砂移動の連続性の確保

●事業の数量・諸元等

●事業費

●スケジュール



●整備効果

ダム等の横断工作物による不連続を解消する事で、ダム下流への土砂供給が図られ、河床形状や河床材料の復元が期待できる。

これにより、魚類の産卵場所の確保や河床環境本来の植生の回復が図られる。

●提案理由(代替案含む)

既設ダムで土砂移動が遮断されたことより、河床低下、流路の固定化及び河床材料の変化等、河川環境に悪影響を与えてると思われるため、土砂移動の連続性を確保するため、土砂吐きトンネル等施設及び人為的搬出などの方策を講じ、河床の改善や復元を図ることを検討し実施する。

また、布目ダムにおいては、水質保全の為の副ダムを設置しており、その中に堆砂した土砂を現在までに約89千m³を掘削し湖外へ持ち出しをした実績があることから、今後は堆砂土を有効利用した土砂供給について検討を行う。

●委員会等からの意見

土砂移動の障害を軽減するための方策の検討は、土砂移動の連続性の確保を基本として検討を進める必要がある。

「総合土砂管理方策の検討」を取り上げたことは時宜を得たものであり、成果に期待する。とくに、ダム内の堆積土砂除去作業時の濁水対策、生物の生息環境を破壊しないダム土砂排除方法についての検討が必要である。

土砂移動の連続性を確保するためのさまざまな手法、代替案の検討が必要である。検討にあたっては、河川全体の土砂収支を重視し、具体的方策、費用、期待される効果などを明らかにする必要がある。

●進捗状況

- ・布目ダム下流への土砂供給について、試験実施。(H16～)
- ・淀川水系総合土砂管理検討委員会を発足(H17年度末)
- ・ダム排砂技術検討会を発足(H17年度末)

土砂移動の障害を軽減するための方策を検討

●進捗状況

・布目ダムの事例(H16年度)

190m³を置土



土砂置土整地状況

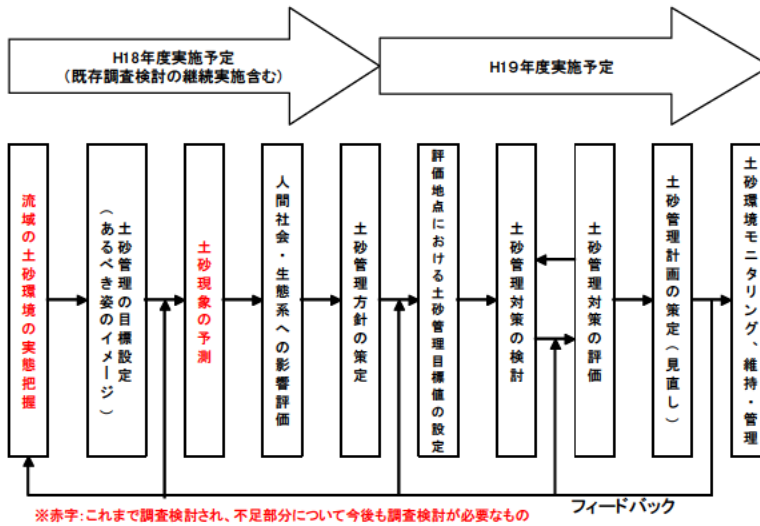


出水による置土は水没した

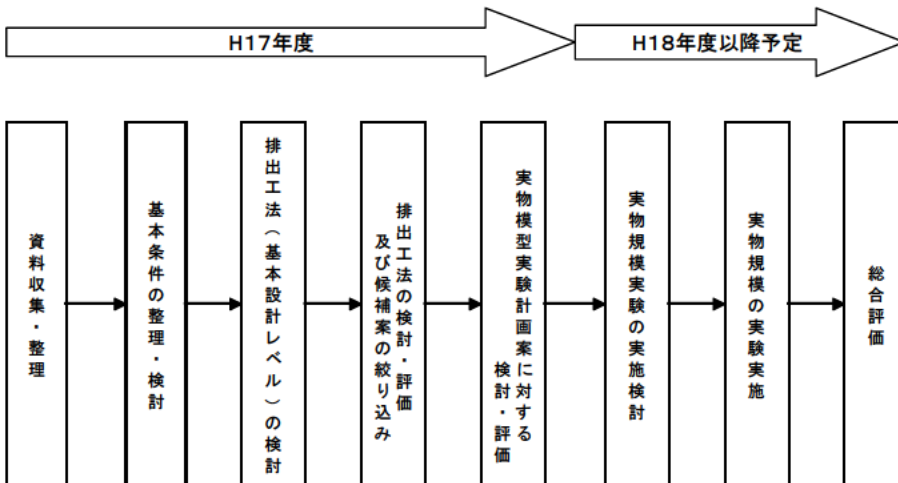


水が引いた後、置土はすべて流されていた。

・淀川水系総合土砂管理検討委員会・検討フロー



・ダム排砂技術検討会・検討フロー



●今後の見通し

日吉ダム・高山ダム・青蓮寺ダム・布目ダム・比奈知ダム・天ヶ瀬ダムについては、下流河川への土砂供給についての検討、試験運用を予定。

一庫ダムでは、ダム上流に堆積した土砂をダム下流へ供給。

引き続き調査・試行を継続して実施する。また、フラッシュ放流による土砂移動範囲を把握するためトレーサ試験を実施する。